

地域全体で子どもを育てる システム作り

—自発的な生活習慣の確立を目指して—

プロフィール

地域

文京区は東京23区のほぼ中心に位置し、人口19万8千人。歴史と文化に恵まれた緑豊かな街で、明治より夏目漱石や森鷗外、宮沢賢治等の著名な文人が多く集まった。

学校

戦災で70年余の歴史を閉じ、昭和29年に地域や同窓生の復興運動により新設。児童数183名、教職員数16名。「考える子」「やさしい子」「元気な子」が教育目標である。

PTA

家庭数160。本部委員会の他、4つの常設委員会（学級代表・保健厚生・校外・広報）と一つの特別委員会（駒本小学校の存続と未来を考える会）が活動を行っている。

1 はじめに

駒本小学校は多くの教育施設に囲まれ、学区内に三十を超える古刹をもつ歴史ある落ち着いた地域にある。単学級の比較的小規模な学校だが、手と目の行き届いた高い質の教育環境が整っている。

本校は元来同窓生や地域住民の運動に端を発し、住民から校地の寄贈を受けて設立された経緯がある。三年前に区から提示された区立小学校統廃合計画に対しても、学区内六町会合同の反対運動が起こった。PTAもそれに後押しされる形で「駒本小学校の存続と未来を考える会」を設立。統廃合計画を廃案に導く力になった。現在、未来に向けたより良い教育の提供へ、地域と共に動き始めている。

2 活動のねらい

地域コミュニティの中で子どもの『生きる力』の向上を図り、自発的に基本的な生活習慣の確立をめざすことにある。

民俗学者の柳田國男氏による教育論には、「平凡教育」と「非凡教育」の二つが挙げられている。平凡教育とは、生きていくための知恵や、みんなが幸せであるための知恵の伝授である。挨拶をすること、相手を褒めること等で積極的にコミュニケーションを取れるようにすることなどが教育の内容となる。他方、非凡教育とは「〇〇君より良い成績を取りなさい」というような教育がその典型といわれ

ている。競争を通じて上昇志向を与え、他者と違う意見を個性として長所と捉える価値観である。子育てには、平凡教育と非凡教育のバランスが大切であり、非凡教育に傾きがちな現代社会を平凡教育重視に導かせることで、生きる力の基礎がしっかりとした人間が育つと考えている。基本的な生活習慣の確立は、まさに平凡教育の典型的な例である。学校・家庭がそれぞれ孤立することなく、学校から家庭という流れだけではなく地域コミュニティから家庭へ平凡教育を与えられる環境作りをめざしている。

3 活動内容

平成十九年度より「PTAからPTA+A（エリア・地域）へ」をPTA活動におけるテーマとして掲げ、より地域とPTAが密接に関わろうとする活動が始まった。更に同年、PTAと地域住民の有志が中心となって「ワクワク子どもクラブ」を設立。同じ地域コミュニティ内に様々な学校へ通う子どもたちが混在する状況の中、在籍校に関わらず近隣地域の親子交流を深める活動も開始された。

また、平成二十年度には駒本小学校支援地域本部を開設。PTAと地域との連携を図りながら、基本的な生活習慣の確立をめざして以下のような活動を行っている。

●早起きの習慣や挨拶習慣の確立をめざして

①スクールガード活動：児童の登下校の見守りが主な目的であるが、積極的な声掛けにより挨拶習慣の確立をめざしている。地域住民とPTAを合わせて四十六名のボランティアが活動中。



スクールガード活動
児童の見守りをしつつ挨拶運動

●正しい食習慣の確立をめざして

①子ども料理科学教室活動：登校後、十五分間の読書タイムを実施。一～三学年は週一回、ボランティアによる絵本の読み聞かせを実施している。PTAや祖父母を中心に、十八名のボランティアが活動中。

②正しい食習慣の確立をめざして
①子ども料理科学教室活動：NPO法人市民科学研究所の協力を得て、科学の視点から食生活の見直しを図る活動。野菜の甘みだけで作るクッキー、発酵食品の不思議や保存食に等について学ぶ。小学一年生から中学生を対象に、ワクワク子どもクラブの協力も得ながら近隣地域にも公開して参加者を募り、他校や地域住民との交流を図っている。

②朝ジム活動：登校時間前十五分間の校庭開放。児童自身が決めた目標達成（縄跳び・鉄棒・一輪車・持久走等）に向けて、運動を行っている。参加児童は目標を書いた「朝ジムカード」を持参。先生に挨拶をして判を押すことで、早起きの意欲作りにも役立つ。

プログラムは異年齢五〜六名のグループを作り、講師から疑問や課題の投げかけから展開していく。子どもたちは試行錯誤を繰り返しながら、科学知識を取り入れた料理作りを進めていく。出来あいではない食品の良さを伝え、料理をすることに関心を持ってもらうことを期待している。

●自立心の確立をめざして

①防災キャンプ：長期休暇期間中、PTAとワクワク子どもクラブが共催した。防災・救護訓練を地域住民とともに実施。続行行われた避難所宿泊訓練は、本校と近隣小学校の児童二年生〜五年生まで三十三名が参加。夕食は子どもたち自身の手で防災食作りの基本



防災キャンプ
防災食を子どもたちが作って試食

を学んだ。ジップロックを利用し湯煎で作る野菜スープは、残った湯を何に使用出来るかを考えた。避難所設営では、限られたスペースと段ボール箱をどう分け合って就寝するかを子どもたち同士が話し合った。援助に入る大人は極力助言を避け、問題解決方法を子どもたちが見つけることを重視した活動を行った。

●コミュニケーション能力の確立・コミュニティの自律をめざして

①ワクワク子どもクラブの活動：同じコミュニティに暮らしているが違う学校へ在籍することにより、希薄となりがちな人間関係を再構築することを目的として「近所の子どもは、みな兄弟・姉妹のように」を理念に設立された。園児から中学生までの子どもとその保護者を対象とした活動である。この活動を通じ知り合った住民同士が、コミュニケーションの輪を広げていくことをねらいとしている。

具体的な活動内容としては、昔あそび・正月あそび・大工体験・奥多摩キャンプ・科学ショー教室・ジャンボ海苔巻作りなどを行なった。定期的に子どもフラダンス教室も開催している。今後子ども将棋教室も開催予定である。



駒本エリアミーティング
地域が子育てに果たす役割—講演・討論会

②駒本エリアミーティング：駒本小学校区内六つの町会・自治会の活動内容報告や、それぞれの歴史について学び合う活動を行い、昔から駒本地域に居住してき

た住民と、マンション等に転居し比較的新しくコミュニティに加わった住民とのコミュニケーションの場を提供した。駒本小学校のみならず文京区全体の教育問題に関する討論会も実施された。

③駒本小学校支援地域本部講演会：「良い地域に良い学校（教育）が作られる」との考えの下、地域コミュニティの形成や教育問題に関する講演会を開催している。

4 活動上工夫した点やその成果

地域全体で子どもと関わることにより、子育て中の親子を孤立させない環境作りを注いでいる。孤立から生じるストレスの増大は、より弱い立場の子どもたちへ波及せが生じる。親子ともにコミュニケーション能力を高めることがそうしたストレスの軽減につながっていく。また、コミュニケーション能力の確立こそが基本的な生活習慣の確立に向けた第一歩と位置付け、地域と保護者が気軽に付き合える場面を増やす工夫を凝らしている。地域コミュニティへ親子で関わることにより、目上の人や異性への接し方、神や仏を敬う気持ち、挨拶や礼儀作法、集まりにおける雰囲気や醸し方などが学びとられていく。これはいわゆる「平凡教育」であり、『生きる力や知恵』が得られていくことを期待している。

また同時に、子どもたちの自発性を高められるよう活動やプログラムを考案している。大人側から答えや情報を提供せず、楽しさや興味を誘発できる仕掛けを用意するよう

心掛けている。

活動の成果として、何よりもまず子どもから自発的に地域住民へ挨拶を交わす機会が増加した。相手の目を見て笑顔で挨拶を交わす姿は、コミュニケーション能力向上の現れであり、基本的な生活習慣の確立に通じている。

また地域住民には、本校児童の成長を地域で見守ってというという雰囲気も広がってきた。交流を重ね子どもたちの笑顔に触れ、子育てが終わった世代からも保護者に共感する心が芽生えてきたものと推測される。更に、PTA会員が積極的に町会・自治会活動に参加しようとする流れも出現してきた。ワクワク子どもクラブの活動に参加した保護者からは、子育ての先輩から良いアドバイスを受ける機会が増えたとの話も聞かれている。

展望

地域全体で子育ての中の親子を支援していこうとする力強く幅広い活動である。非凡教育に傾きがちな現代社会を平凡教育重視に導くことで基本的な生活習慣を確立することができるという考えに基づき展開される諸活動は説得力のある骨太いテーマが存在する。学校から家庭へという流れのみならず、地域コミュニティから家庭へという流れを作り出しているところにこの活動の意義がある。子どもたちと地域を結ぶ示唆に富んだ事例である。